

# 水田輪作による酪農について

愛知県碧海郡高岡町若林

## 猪塚幸民

の家畜をも含めて飼料の自給率を七割以上とするための需給計画を樹てたのであります。

早期作三五反歩の跡作における飼料作物の栽培は第一図の様であります。主として

### 早期栽培と飼料作物

早期作三五反歩の跡作における飼料作物の栽培は第一図の様であります。主として

C 区は一反四散歩で前作は水稻（ヤチコガネ）及び山菜であります。四月八日保温苗代により育苗したものを五月二四日に植付け九月一九日より刈取り跡作としては耐寒性の強い長岡四季カンランを定植し、現在結球中期であります。尚この時期のカンラン栽培は結球後期に肥切れをさせる必要があると聞きましたのでエン麦とコンモンベッヂの混播を行いました。

私の住む高岡町は碧海郡の最北端に位置する高岡町の浅土、瘠薄による秋落ち水田の広く分布する一帯にあり全耕地の七割以上が水田であります。従つて米麦を中心とする単純な經營が繰返され、その生活も困難をきわめ且つ不安定なる状態にありました。そこで私は何とかしてこの古い「カラ」を破り、家畜を導入しての新しい農業經營を打樹てんものと爾来乏しい力の総てを經營の合理化に打込んで参りました。

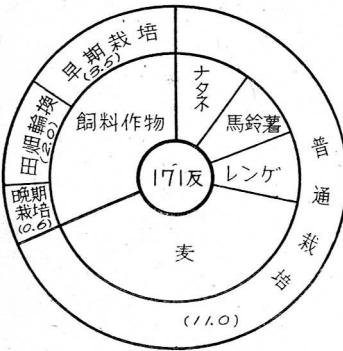
そこで私は最も安定した農業形態である飼料作物をこの様な水田地帯に取入れ、地力の増進と飼料の自給という観点から、能力の高い飼料作物の水田輪作が必要であると思ひ、水田輪作による飼料自給への研究着手しました。

### 畦畔雜草の改良

先ず畦畔雜草の改良を志し調査した所、その面積は凡そ二反歩あり着手前は飼料価値の低い本科の雜草が多く生えていたのであります。二七年より土壤改良に伴うイタリアンライグラス、オーチャード、レッドクロバー等を混播した所、今日では五割以上が繁茂し飼料価値にして凡そ三割の増収となりました。

### 水田輪作による飼料作物の栽培

第1図 水田輪作体型 (30年度)



第2図 早、晚期栽培と輪栽

区分	反別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
早期栽培		ニール保溫 早期水稻											
A	1.0	飼料カブ	青刈ライ麦	銀河一号	飼料カブ								
B	1.1		青刈燕麦	銀河一号		宮重絶太り大根							
C	1.4		青刈エンドウ	サート	ヤチコガネ		長岡四季カンラン						
晚期栽培		苗代 晚期水稻											
D		青刈ライ麦	青刈ほわわ+コーン	銀河一号	青刈ライ麦								

註 ザート:ザートウイッケン (コンモンベッヂ)

(二) 晚期栽培と飼料作物

一方晚期栽培区では昨年から本格的に取入れたが従来までの再植苗による方法を排し晚播晚植で行つてみましたが。六月下旬水稻苗代に銀河一号を播種し七月二〇日に田植をしました。前作は青刈コーンとひまわりの混播であります。四月五日青刈ライ麦の間に播種しましたがひまわりは晚霜害も影響なく順調に生育し七月一八日サイレージ用として稍り早目に収穫しました。従来の蔬菜後の晚植では前作の収穫期が遅れればそれだけ

て冬期の多汁質飼料を中心として作付しました。先ずA区一反歩では前作水稻は銀河一号を用い八月二日より小岩井カブヒルタバガを五散播付け一二月上旬より一部収穫を始めていますが本格的利用は二月中旬と三月上旬であり、その収量は一、五〇〇貫以上が見込まれ、畦間には既に青刈ライ麦が三寸以上に伸びており、これを五月上旬サイロづめとして明年の早期栽培に結び付けています。

### (三) 田畠輪換栽培

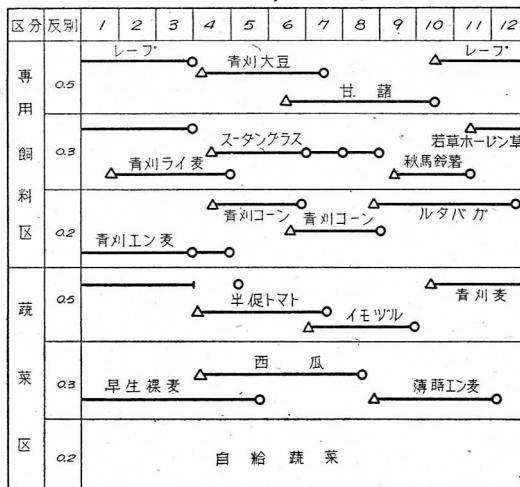
以上私は水稻の作付体制の改善による飼

画的に輪作していますが、今後一反六畠歩の湿田の土地改良を行う事により全水田への輪作が可能となりました。

### 三 水田輪作の考察

画的に輪作していますが、今後一反六畠歩の湿田の土地改良を行う事により全水田への輪作が可能となりました。

### 第3図 田畠輪換栽培

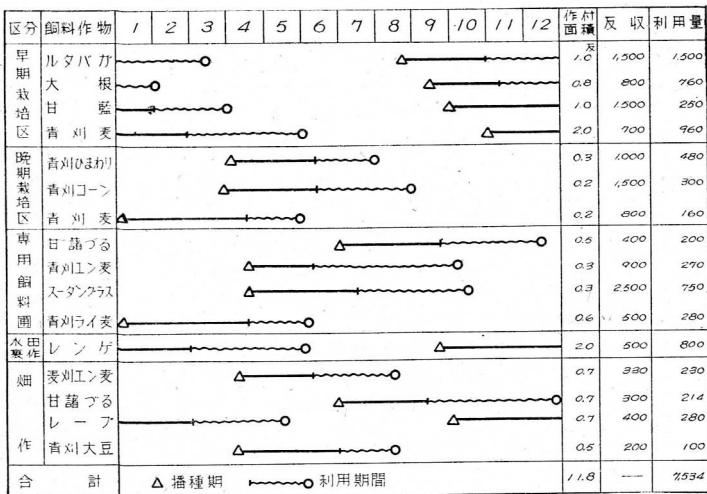


計画樹立後七年目を迎えた全経

四 水田酪農の成田

の外諸類、実取麦等が九三〇貫あります。以上の飼料で四七七石の泌乳と二頭の育成乳牛、和牛二頭に要する養分量の七割の自己給率が達成出来ました。

第4図 水田輪作における飼料作物収量表

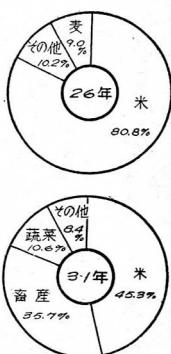
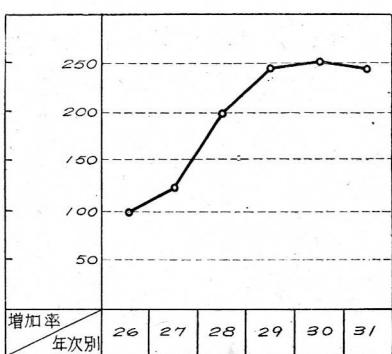


(昭和三十二年、第五回愛知県有畜當農体  
驗發表一等)

の整備に伴い、畜力の高度利用が可能となつたため、二九年度には年間労働の配分合理化に一步前進することが出来て、年間を通して一七五時間の労働時間を節約したのであります。

乳牛を導入した事は有機質肥料の増産となり、現在年間を通じて一三、〇〇〇貫以上  
の厩肥が生産されこれにより各作物はそれぞれ增收を示しております。例えば主作物たる稻作については二六年の平均反収二石三斗に対して三一年度は二石九斗一升と六斗の增收を示して地力が年々向上の一途にあることが推察され、今後の經營の安定化に期待と喜びを感じております。

第5図 農業粗収益



ていた過去の経営に比べ、漸次改善されその総合収益は二倍半且つその内訳において畜産収入が四割近くを占めている点から判断して、これ等が経営の安定性を今後とも増加するものと思われます。一方支出の面についても従来大きい割合を占めていた生活費や肥料費も自給生産物の利用により軽減しつつあります。(第五図)

又私は水田地帯の酪農を無理なく発展させるためには必ず水田労働の改善と労働能率の向上を図る必要があるると思い、先ず労働力の分散化の点から前記の様な水稻の栽培方法の改善を行いました。これに圃場条件

の総合収益は二倍半且つその畜産収入が四割近くを占めて断して、これ等が経営の安定増加するものと思われます。についても従来大きい割合を活費や肥料費も自給生産物の減しつつあります。(第五回)

内訳において次改善されそ  
うする点から判断する  
一方支出の面で占めていた生  
活費による軽減